

## 厚生文教常任委員会行政視察報告書

厚生文教常任委員会の行政視察を実施した結果について、下記のとおり報告いたします。

### 記

- 1 期 日 令和5年10月16日(月)～18日(水)
- 2 視 察 地 千葉県松戸市、東京都昭島市、神奈川県大和市、埼玉県富士見市
- 3 目 的 (1) 千葉県松戸市  
「子育て施策について（送迎保育ステーション、駅前・駅ナカへの小規模保育施設の整備）」  
(2) 東京都昭島市  
「アキシマエンシス（昭島市教育福祉総合センター）について」  
(3) 神奈川県大和市  
「おひとりさま支援条例と高齢のひとり暮らしの方を支援する取組について」  
(4) 埼玉県富士見市  
「フレイルチェック事業について」
- 4 参 加 者 月 光 裕 晶 佐 藤 政 人 阿 部 清  
荒 木 春 吉 太 田 芳 彦 伊 藤 正 彦  
後 藤 健一郎 太 田 陽 子  
山 本 かおる（健康増進課）  
古 谷 駿 幸（議会事務局）
- 5 視察概要 別紙のとおり

令和5年11月30日

厚生文教常任委員会  
委員長 月光裕晶

寒河江市議会議長 柏倉信一殿

## 千葉県松戸市の視察概要

### 1 市の概要

松戸市は、都心から 20 キロメートル圏に位置し、さらに千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置している。西側は江戸川を挟んで東京都葛飾区、江戸川区、埼玉県三郷市に隣接し、南側は市川市、東側は鎌ヶ谷市、東側から北側にかけて柏市・流山市と隣接している。松戸の市域面積は 61.38 平方キロメートルで、東西 11.4 キロメートル、南北 11.5 キロメートルと、ひし形状の広がりとなっている。

人口は、千葉県内で 3 番目に多い。また、昼夜間人口比率（令和 2 年国勢調査）は、82%と全国的にみても低く、近郊住宅地としてのいわゆるベッドタウン化の現象が続いている。

### 2 財政の状況

- (1) 令和 5 年度一般会計当初予算：169,460,000 千円
- (2) 自主財源：87,628,377 千円（51.7%）
- (3) 依存財源：81,831,623 千円（48.3%）

### 3 調査内容

#### 【子育て施策について（送迎保育ステーション、駅前・駅ナカへの小規模保育施設の整備）】

松戸市内の利便性の高い駅前にある送迎保育ステーションから指定幼稚園までのバス送迎にかかるサービスを提供している

### 4 所感

松戸市はとにかく親のことを考えた施策づくりをしていると感じた。

待機児童ゼロとはいうが、それは単純に自治体全体で受け入れ可能な人数が、申し込み人数を上回っているだけの話であり、本来希望する施設には通えていない現実がある。やはり保護者は自宅の近くか、職場と自宅の間の立地を希望する傾向にあるので、どうしても申し込みが集中してしまう施設があるのは仕方ないことだと思う。

しかし松戸市はその問題を駅近、駅中小規模保育施設と駅前送迎保育ステーションという形である程度解決した。多くの保護者が利用する駅前に各施設を整備し、そこに子供を預け仕事に行き、また帰りに駅前で子供を引き取る。一方で各幼稚園は園児を保育ステーションまで迎えに行き、そして時間になるとまたそこに送り届けることになっている。これでほとんどの親は仕事に行くために使う駅近辺で子供を預けられるという、とても合理的なシステムだと感じた。

送迎保育ステーションでは、松戸市私立幼稚園預かり保育の助成対象の要件を満たす方を優先に一時預かり保育を行っており、運動会など行事の翌日等で幼稚園の預かり保育がおやすみの場合でも、一時預かり保育を活用することで、就労中の方でもより幼稚園の検討がしやすくなっている。

さらに一部の送迎保育ステーションでは、在宅勤務等の働き方をしている方で就学前児童（送迎保育ステーションに子どもを預ける場合は、3歳から5歳児）の保護者を対象に、少しの時間子どもを預けて落ち着いて仕事がしたいなどのニーズに応えるため、育児と子育ての両立支援を目的に託児機能付きのコワーキングスペースを設置している。

そして小規模保育施設は駅前という立地にも関わらず小スペースで設置でき、開設費用の面でも経済的な負担が軽いため、行政側にとってもいいことづくめである。現在、日本の都市部では3歳未満の低年齢児を預かる保育園が足りず、待機児童の解消ができないという問題を抱えており、この待機児童解消のため、国は子ども・子育て支援法を新たに制定し小規模保育という枠組みを作った。小規模認可保育所は定員が6人以上19人以下の少人数で行う保育で、一人の保育スタッフが担当する子どもの数が少ないため、手厚く子どもの発達に応じた質の高い保育が行うことができる」と期待されている。

このシステムを車社会である寒河江で活用するには、比較的職場となることが多い、山形市、天童市、東根市などに通じるある程度大きい道路の側に大きめの駐車場完を備した施設が必要となってくる。今は使われていない空き店舗などを活用できれば可能ではないかと思う。あとはやはり、働き手である保育士の養成や確保にも注力をしていかなければならないと感じた。

## 東京都昭島市の視察概要

### 1 市の概要

昭島市は都心から西に約 35 キロメートル、東京都のほぼ中央に位置し、東・北は立川市、西は福生市、南は八王子市・日野市に接している。

昭和 29 年 5 月 1 日、北多摩郡昭和町と拝島村が合併し、東京都で 7 番目の市として誕生した。「昭島」という市名は、この 2 つの自治体名を合わせて命名されたもので、このときの人口は 36,482 人であった。市制施行後は、工場誘致により産業が振興されるとともに、都心への通勤圏に位置することからの大型団地の建設があり、昭和 62 年には 10 万人都市となった。そして現在、人口は約 11 万人を数え、多摩地区の中核的な都市として発展しており、「人間尊重」と「環境との共生」を基本理念としたまちづくりを目指している。

### 2 財政の状況

- (1) 令和 5 年度一般会計当初予算：49,100,000 千円
- (2) 自主財源：25,397,487 千円 (51.7%)
- (3) 依存財源：23,702,513 千円 (48.3%)

### 3 調査内容

#### 【アキシマエンス（昭島市教育福祉総合センター）について】

学校跡地を活用して整備した施設とのことから、「地域との関わり（の維持・確保・継続）についてどのように考えて整備したか」を中心に教えていただいた。

### 4 所感

昭島にある廃校を利用した建物も含まれる、大型複合施設を研修視察した。

元の校舎棟には交流室や子育て広場、社会福祉事業団の事務所、こども発達支援室、男女共同参画センターや郷土資料展示室、その他多くの会議室などがある。体育館には可動式の客席が整備されており、体育館としても使えたり舞台やホールとしても使えるようになっている。そこに増築という形で、とても近代的な設備を備えた図書館が整備された。

やはりここでも、利用者のことを最大限に考えられた作りになっているなど感じた。多目的トイレはすべての階にあり、子育て広場の隣には授乳室、親子トイレ、そしてベビーカー置き場が整備されていた。男女共同参画センターの中にも、子供を遊ばせるスペースがあり、保護者の交流の場にもなっているようであった。かなりきれいにリフォームされてはあるのだが、昇降口か教員用の玄関のようなところは全くリフォームされておらず、当時の面影を残し懐かしんでもらえるようにするという細かい工夫もあった。このことから校舎棟は市民の交流をメインとし再利用されているようであった。同じ建物内に多くの施設があるのは、乳幼児を持つ保護者にとっては移動などの面でとても便利であると感じた。

そして、図書館ではICT化がかなり進んでおり、図書の貸し出しをフェリカで完結できたり、返却された本の仕分けや、書庫も全てICTで管理されていた。この図書館も、静かにしていなければいけないという決まりがなかったり、ティーンズ学習室やグループ学習室といった部屋を決められたそれぞれのグループで利用したり、図書館の真ん中には交流広場があったりと、やはりこちらも交流をメインで考えられているようであった。堅苦しくない空間が子供を持つ保護者にはとても居心地がいいようで、校舎等を利用した市民が帰りに図書館に寄って帰るという流れも一般的になっているようであった。

これから寒河江市も図書館を指定管理制度にしたりと変化が出てくると思うが、ぜひ市民の交流の場として活用できるよう、多くの市民に利用してもらえるように駐車場を広げるなどの整備していただきたいと感じた。

## 神奈川県大和市の視察概要

### 1 市の概要

大和市は、神奈川県ほぼ中央部、相模野台地と総称される段丘面上に、南北に細長く位置しており、丘陵起伏がほとんどない都市である。この相模野台地の間には細い谷があり、ここに走る水流は、本市の東側を流れ東京都町田市、横浜市との市境となる境川、本市上草柳の北部に源を発し市内西側地域を流れる引地川となっている。

都心から約40キロメートル圏内にあり、鉄道は中央部を南北に小田急江ノ島線、東西に相模鉄道線が走り、北部には東急田園都市線が乗り入れ、狭い市域に8駅がある。また、道路網も国道16号、246号及び467号などが東西・南北に走り、交通の利便に恵まれている。

また、東京の田園都市(現在の田園調布)構想に対し、1927年(昭和2年)に小田急電鉄(株)が「林間都市」の構想をもとに区画整理した宅地分譲計画に着手しており、基地の設置以前に、住宅都市としての基盤が既にできていた。このようなことから都市化が急速に進み、人口も増加した。

1959年(昭和34年)2月1日に県下14番目の市として市制を施行し、2011年(平成23年)10月には人口が23万人を超えた。

### 2 財政の状況

- (1) 令和5年度一般会計当初予算：84,980,000千円
- (2) 自主財源：46,495,031千円(54.7%)
- (3) 依存財源：38,484,969千円(45.3%)

### 3 調査内容

#### 【「おひとりさま支援条例」と高齢のひとり暮らしの方を支援する取組について】

近年増加している一人暮らしの高齢者への支援について力を入れて取り組んでいる自治体とのことであるため、「大和市おひとりさま支援条例」制定の経緯を中心に、上記高齢者への支援施策について教えていただいた。

### 4 所感

「おひとりさま支援条例」を制定している大和市に視察研修で伺った。

条例制定の背景には、閉じこもり傾向や社会的孤立は、健康なおひとりさまにも悪影響をもたらすことがわかっており、アンケート調査で大和市もその傾向が高いことが明らかになったため、外出や社会交流の促進に取り組むことで、おひとりさまに健康を保ってもらおうといった理念がある。

条例上の基本的施策として4つの点が挙げられる。

- (1) おひとりさまに関する普及啓発
- (2) おひとりさま及びその家族への相談支援

(3) 外出及び社会交流の支援

(4) 情報の収集及び提供

そのため、出前講座や窓口相談の実施、支援としてはおひとりさまサロンの開設、お役立ちガイドの配布などを行っている。

とても興味深い項目として、1人でも参加できるイベントアンケートでも上位に入るマーじゃん大会や、おひとりさまの居場所として公園に設置されている健康遊具などがあった。マーじゃんは指を多く使い、なおかつ思考力や洞察力などあらゆる能力の活性化にもつながる。公園に健康遊具が設置してあれば、その公園に行く道中もウォーキングになり、公園では同じ目的の仲間との交流もできる。これらの項目は寒河江市でも実施可能なのではないかと感じた。

年々高齢化が進んでいくなかでも、健康寿命を伸ばして楽しい人生を送ってもらおうという、とても素晴らしい施策であると感じた。

## 埼玉県富士見市の視察概要

### 1 市の概要

埼玉県の南東部、都心部から 30 キロメートル圏に位置し、東は荒川をへだててさいたま市に、北は川越市・ふじみ野市に、西は三芳町に、南は志木市にそれぞれ接している。

鉄道は、東武東上線が南北に貫通しており、みずほ台駅、鶴瀬駅、ふじみ野駅の 3 駅が設置されており、また、平成 20 年 6 月には、これまでの地下鉄有楽町線に加え、地下鉄副都心線と東武東上線の相互乗り入れが実現した。さらに、平成 25 年 3 月には、東武東上線と東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転（東京メトロ副都心線経由）が開始したことにより、池袋まで 30 分、渋谷まで 45 分、横浜まで 70 分、元町・中華街までは 80 分と、交通の利便性が向上した。道路は、周辺都市を結ぶ主要な道路として、南北方向に関越自動車道、国道 254 号（川越街道）、富士見川越道路（国道 254 号バイパス）が、東西方向に国道 463 号（浦和所沢バイパス）が走っている。

平成 25 年 4 月 1 日現在、富士見市道が 2,974 路線、道路総延長は 414.4 キロメートルある。

### 2 財政の状況

- (1) 令和 5 年度一般会計当初予算：39,038,934 千円
- (2) 自主財源：19,453,472 千円（49.8%）
- (3) 依存財源：19,585,462 千円（50.2%）

### 3 調査内容

#### 【フレイルチェック事業について】

（フレイルとは、わかりやすく言えば「加齢により心身が老い衰えた状態」のこと）

市民ボランティア団体（フレイルサポーター）を中心に据えた、フレイル状態の早期発見およびフレイル予防の普及啓発に関する取組について。

### 4 所感

フレイル予防に力を入れている富士見市に視察研修でお伺いした。

富士見市は健康長寿のカギはフレイル予防と考えており、その予防に重要な三本柱として、栄養、運動、社会参加の 3 つを挙げ、住民による住民のためのフレイル予防の確立を目指している。

東京大学高齢社会総合研究機構が監修する「フレイルサポーター養成研修」を受講したフレイルサポーターが 38 名おり、フレイルチェック測定会を行っている。測定会の定員は 20 名で、1 回あたりの参加者は 8 名から 20 名、公民館、交流センター等での定期的な測定会以外に、町会や地域の体操クラブから測定の依頼があり対応をしている。



予防の三本柱に基づき、フレイルチェック参加者向けにフォローアップ研修として栄養講座、ノルディックウォーキング講座を実施したり、運動と社会参加ができる富士見パワーアップ体操クラブを地域で展開している。フレイル状態が心配な方向けには、はつらつ教室フレイル予防コースを実施し、その中で個別栄養相談、歯科衛生士による口腔衛生指導、作業療法士による個別運動指導、保健師による健康相談等を実施している。その他にも、地域の高齢者サロン等の集まりで、管理栄養士が栄養講話を実施している。

このフレイルチェックは、高齢者が心身の衰えを自覚するにはとてもよいシステムであり、自覚することによりその後の生活改善にもつなげられる。フレイルサポーター研修があつたりなどはするが、どの自治体でも取り入れることが可能であるため、徐々に導入する自治体が増えているようである。これからの超高齢社会での健康維持や、高齢者に豊かな生活を送っていただくためにも寒河江市でもぜひ前向きに検討いただきたい施策であると感じた。